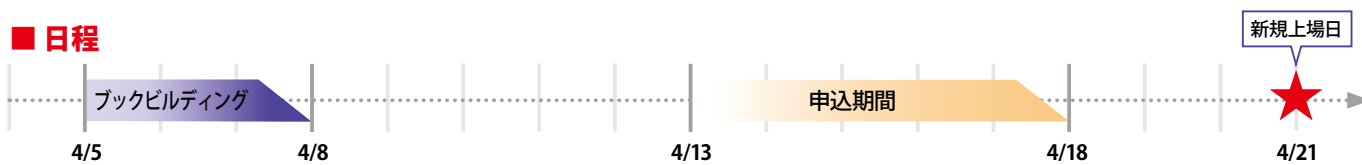


IPO銘柄 ジャパンミート (3539・東証2部)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3539	100株	公募: 375.00万株 売出: 45.00万株 (OA63.00万株)	910円~1,010円 (-)	みずほ証券

■ 日程



「肉のハナマサ」などスーパーマーケットを関東地区で展開

■ 事業内容

茨城県を中心に関東地区でスーパーマーケット事業を展開。13年9月に東京23区中心に「肉のハナマサ」を展開する花正(非上場)を子会社化している。スーパーマーケット事業では、大型商業施設内店舗「ジャパンミート『生鮮館』」、関東圏の単独店舗「ジャパンミート『卸売市場』」、子会社のパワーマートが運営する「パワーマート」などがある。ジャパンミート『生鮮館』は大株主でもあるジョイフル本田<3191>のホームセンターなど大型商業施設内に店舗している。その他事業では子会社を通じて焼き肉店、とんかつ店などの外食事業を展開している。

■ 特徴

創業は精肉店で、青果や鮮魚、惣菜などの専門子会社を合併して業容を拡大させてきた経緯があり、各売り場の専門性の高さが特徴。売り場は特定の商品を大量に陳列して顧客にアピールする「異常値販売(単品大量販売)」を定期的実施するほか、加工物流センターでの大量かつ効率的な精肉加工など効率的な販売に努めている。仕入れは、加工物流センターの大量備蓄機能を活用することで市場価格変動の影響を受けにくい体制を構築する。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年7月期の連結経常利益は前期比21.0%増の43億300万円を見込む。「異常値販売」の効果で顧客の買い上げ点数が増加しており、売上高は増加。新規出店や既存店舗の改装なども積極的に行っている。中期的にはM&A(企業の合併・買収)による規模拡大も期待材料となりそう。

■ 定性分析

「ハナマサ」の知名度は武器だが、食品スーパーはIPOマーケットで人気化しづらい業態。加えて、ブック前に公開株式数の削減を行って、上場市場は東証2部となっている。不人気イメージも強くなってしまい、積極的に初値を買う理由が乏しくなっている。

■ 需給状況

ブックビルディング前に公開株式数を1,150万株から483万株に削減し、市場からの吸収金額も当初の見込みの半分以下となる約49億円に減少した。ただ、東証2部上場案件としてはこれでも荷もたれ感が強い。不人気イメージもあって厳しい需給状況となっている。(小泉健太)

■ 類似企業

ジャパンミート(3539・東証2部)	予想PER - (仮条件上限)
アークス(9948・東証1部)	予想PER19.4倍
オークワ(8217・東証1部)	予想PER56.1倍

■ 引受証券

みずほ証券、水戸証券、常陽証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年7月期(実績)	78,694	—	2,481	—	1,339	—	60.1	1.0
15年7月期(実績)	91,540	16.3	3,556	43.3	1,854	38.5	83.2	1.0
16年7月期(会社予想)	95,807	4.7	4,303	21.0	2,694	45.3	—	—

※ 14年7月期より連結決算。16年2月に株式分割(1株→100株)を実施。14年7月期、15年7月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年7月期	222,995	25,036	10,958	183	491.4	43.8	13.0
15年7月期	222,995	28,225	12,857	183	576.6	45.6	15.6

※ 14年7月期および15年7月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	境 正博	5,525,200	24.78
2	境 弘治	3,811,300	17.09
3	境 和弘	3,295,400	14.78
4	ジャパンミート従業員持株会	1,273,200	5.71
5	藤原 ひろみ	1,066,900	4.78
6	境 和美	1,039,000	4.66
7	ジョイフル本田	800,000	3.59
8	黒田 新一	722,400	3.24
9	藤原 克朗	686,300	3.08
10	黒田 幸子	403,200	1.81

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	境 正博
代表取締役副社長 管理本部長	森 俊郎
取締役会長	境 弘治
取締役副会長 精肉部管掌	境 和弘
常務取締役 加工物流センター管掌	藤原 克朗
取締役	中島 勝利
取締役	黒田 賢一
取締役	藤原 健一
取締役	緑川 清春
取締役	大瀧 敦子
常勤監査役	村井 幸夫
常勤監査役	富田 勝彦
監査役	関 周行
監査役	根本 佳典

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。